

職場における熱中症による死傷災害の発生状況
(平成31年1月15日時点速報値)

1 熱中症による死傷者数の推移 (平成21～30年分)

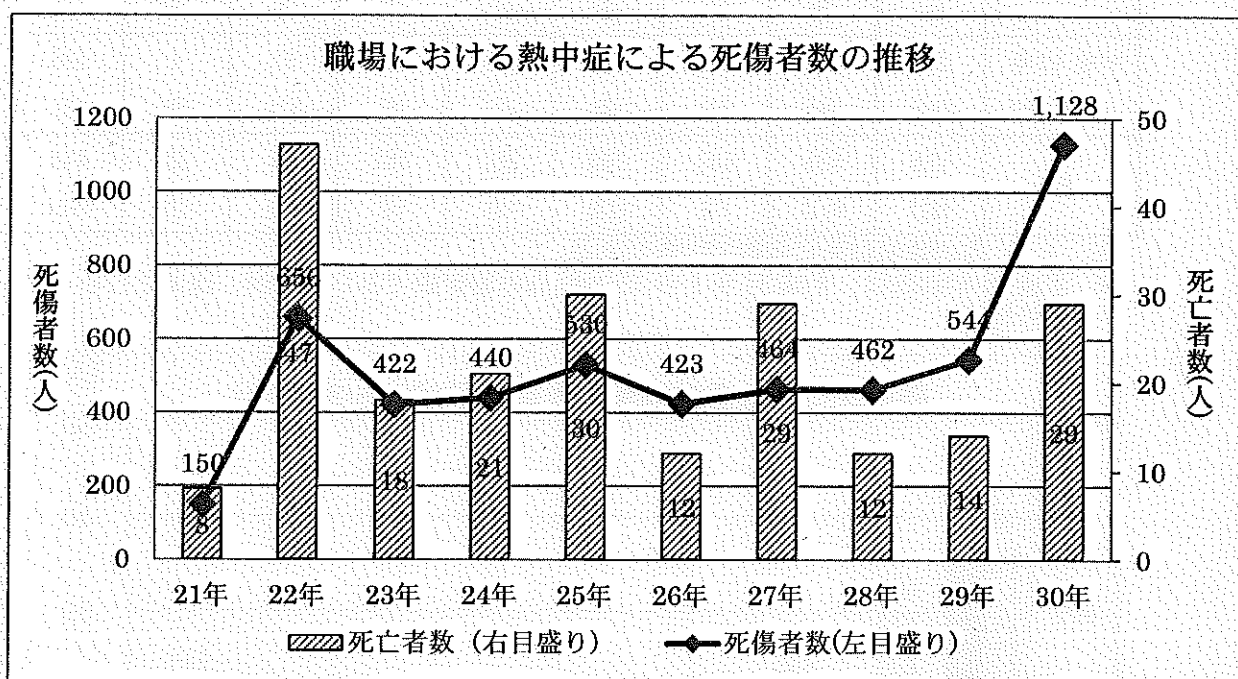
過去10年間(平成21～30年)の職場での熱中症による死亡者及び休業4日以上の業務上疾病者数(以下合わせて「死傷者数」という。)をみると、平成22年に656人を記録し、その後は400～500人台で推移していたところ、平成30年に1,128名と最多となった。

平成30年の死傷者数は1,128名、死亡者数は29名となっており、平成29年と比較して、死傷者数、死亡者数ともに2倍以上に増加している。

職場における熱中症による死傷者数の推移 (平成21～30年) (人)

21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
150	656	422	440	536	423	464	462	544	1,128
(8)	(47)	(18)	(21)	(30)	(12)	(29)	(12)	(14)	(29)

() 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数



※ 平成30年の数は、平成31年1月15日時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。

2 業種別発生状況（平成 26～30 年）

過去 5 年間（平成 26～30 年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業が最も多く、次いで製造業で多く発生しており、全体の 4 割強がこれらの業種で発生している。

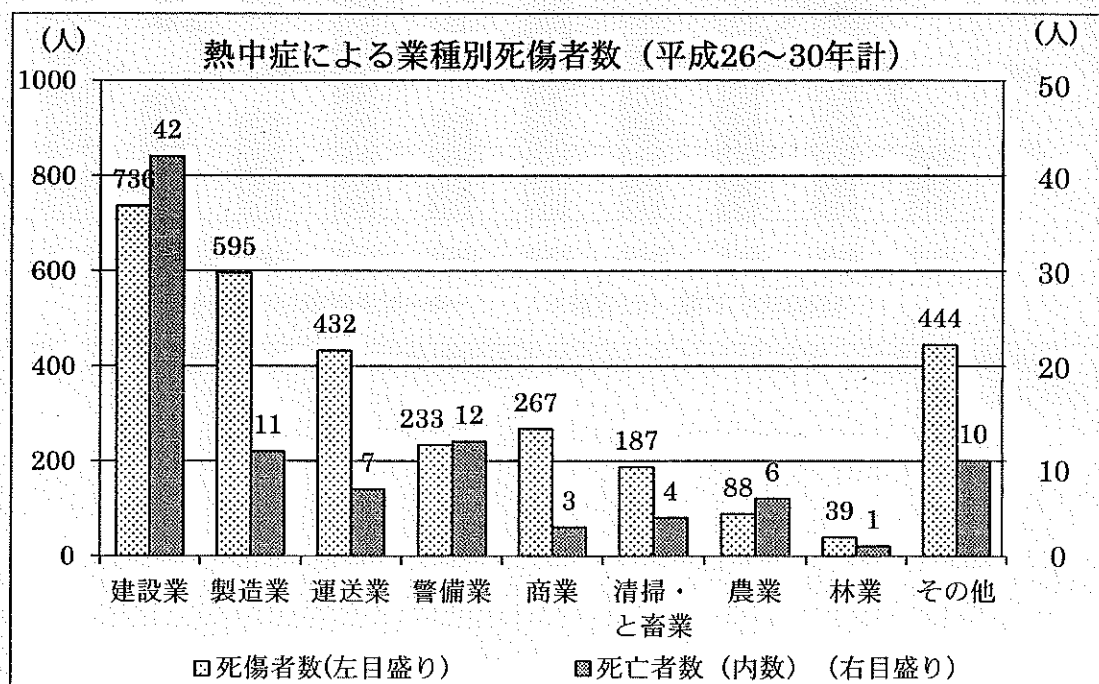
平成 30 年は、死亡災害の約 3 割が建設業において発生しており、次いで、製造業、運送業において多く発生している。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（平成 26～30 年） (人)

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農業	林業	その他	計
平成 26 年	144 (6)	84 (1)	56 (2)	20 (0)	28 (0)	16 (0)	13 (1)	7 (0)	55 (2)	423 (12)
平成 27 年	113 (11)	85 (4)	62 (1)	40 (7)	50 (0)	23 (2)	13 (1)	8 (0)	70 (3)	464 (29)
平成 28 年	113 (7)	97 (0)	67 (0)	29 (0)	39 (1)	37 (1)	11 (1)	13 (1)	56 (1)	462 (12)
平成 29 年	141 (8)	114 (0)	85 (0)	37 (2)	41 (0)	32 (1)	19 (2)	7 (0)	68 (1)	544 (14)
平成 30 年 (速報値)	225 (10)	215 (6)	162 (4)	107 (3)	109 (2)	79 (0)	32 (1)	4 (0)	195 (3)	1,128 (29)
計	736 (42)	595 (11)	432 (7)	233 (12)	267 (3)	187 (4)	88 (6)	39 (1)	444 (10)	3,021 (96)

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。

※ 平成 30 年の数は、平成 31 年 1 月 15 日時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



3 月・時間帯別発生状況

(1) 月別発生状況（平成26～30年）

平成26年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の9割弱が7月及び8月に発生している。

平成30年の死亡災害は6月から9月に発生し、6月は2名、7月は18名、8月は8名、9月は1名が死亡している。

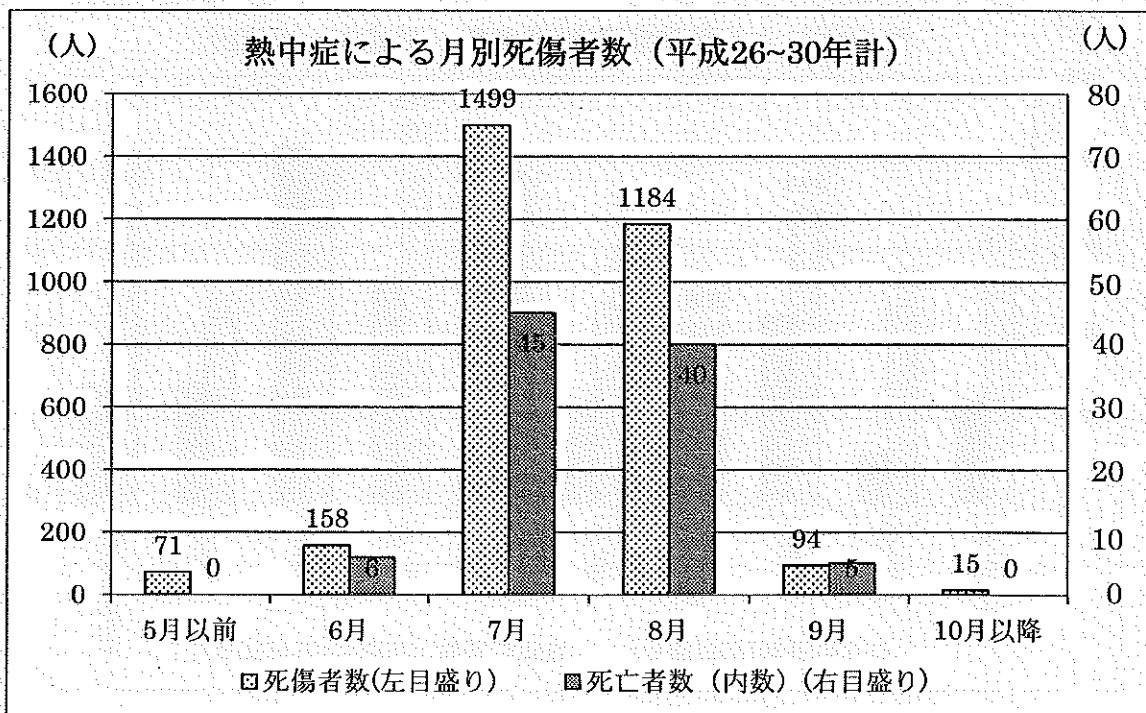
熱中症による死傷者数の月別の状況（平成26～30年） (人)

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
平成26年	6 (0)	32 (0)	182 (6)	191 (5)	8 (1)	4 (0)	423 (12)
平成27年	15 (0)	19 (2)	212 (10)	210 (16)	7 (1)	1 (0)	464 (29)
平成28年	12 (0)	26 (2)	162 (2)	219 (6)	39 (2)	4 (0)	462 (12)
平成29年	19 (0)	25 (0)	264 (9)	222 (5)	13 (0)	1 (0)	544 (14)
平成30年 (速報値)	19 (0)	56 (2)	679 (18)	342 (8)	27 (1)	5 (0)	1,128 (29)
計	71 (0)	158 (6)	1,499 (45)	1,184 (40)	94 (5)	15 (0)	3,021 (96)

※ 5月以前は1月から5月まで、10月以降は10月から12月までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。

※ 平成30年の数は、平成31年1月15日時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



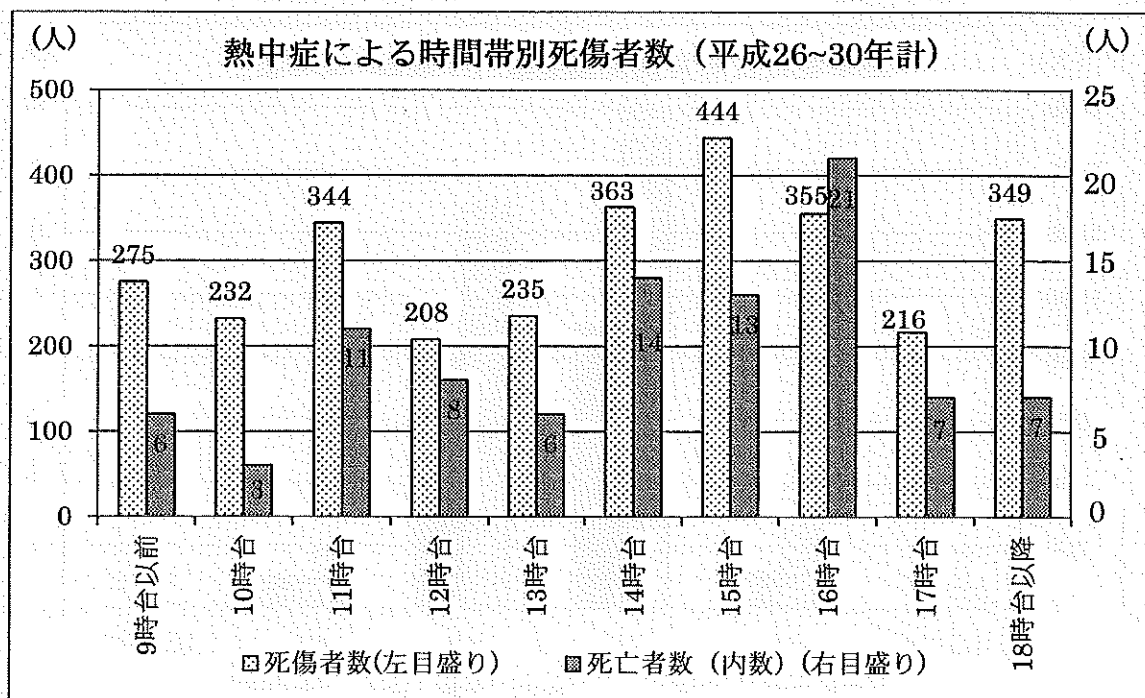
(2) 時間帯別発生状況 (平成 26~30 年)

平成 26 年以降の時間帯別の死傷者数をみると、11 時台及び 14~16 時台に多く発生している。なお、日中の作業終了後に帰宅してから体調が悪化して病院へ搬送されるケースも散見される。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況 (平成 26~30 年) (人)

	9 時台以前	10 時台	11 時台	12 時台	13 時台	14 時台	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台以降	計
平成 26 年	24 (0)	39 (0)	46 (2)	43 (1)	32 (1)	47 (2)	69 (1)	48 (3)	31 (0)	44 (2)	423 (12)
平成 27 年	45 (0)	23 (1)	61 (3)	34 (2)	41 (3)	59 (6)	66 (3)	53 (5)	37 (4)	45 (2)	464 (29)
平成 28 年	50 (1)	35 (0)	52 (2)	21 (0)	34 (1)	56 (1)	75 (2)	47 (3)	39 (1)	53 (1)	462 (12)
平成 29 年	47 (0)	41 (1)	67 (3)	33 (1)	51 (0)	56 (1)	82 (2)	69 (4)	35 (2)	63 (0)	544 (14)
平成 30 年 (速報値)	109 (5)	94 (1)	118 (1)	77 (4)	77 (1)	145 (4)	152 (5)	138 (6)	74 (0)	144 (2)	1,128 (29)
計	275 (6)	232 (3)	344 (11)	208 (8)	235 (6)	363 (14)	444 (13)	355 (21)	216 (7)	349 (7)	3,021 (96)

- ※ 9 時台以前は 0 時台から 9 時台まで、18 時台以降は 18 時台から 23 時台までを指す。
- ※ () 内の数値は死亡者数で内数である。
- ※ 平成 30 年の数は、平成 31 年 1 月 15 日時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



4 平成30年の熱中症による死亡災害の事例（速報^(注1)）

番号	月	業種	年代	事案の概要
1	6	木造家屋建築工事業	40歳代	戸建て住宅新築工事において、基礎土台組、床板貼作業に従事していたが、気分が悪くなり動けなくなり、病院へ搬送されたが、治療中に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は25.7℃ ^(注2) 。
2	6	木造家屋建築工事業	20歳代	プレカット材をトラックから建設現場内の作業員へ手渡しにより搬入する作業に従事していたが、昼の休憩中に具合が悪くなり、翌日死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は30.1℃ ^(注2) 。
3	7	農業	80歳代	午前8時より草刈りの補助業務に従事していたが、夕刻、立ち尽くしたまま動かないため他の作業員が声をかけたところ卒倒し、病院へ搬送されたが、翌日午前中に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は28.5℃ ^(注2) 。
4	7	木造家屋建築工事業	20歳代	木造住宅の解体現場で木くず等をトラック荷台に積み込む作業に従事していた。午後2時30分、休憩中気分が悪くなり、そのまま木陰で休憩していたが、体調が回復しないため仕事を切り上げ、午後3時頃に帰社する途中で嘔吐、けいれんし、救急搬送された。2日後に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は28.0℃ ^(注2) 。
5	7	木造家屋建築工事業	50歳代	個人住宅2階のベランダ改修工事において、木製のベランダを組立て後に床部分を防水処理する作業に従事していたが、ベランダ上で倒れ、救急隊が到着するもベランダから地上に降ろすことができず救助隊を要請した。倒れてから約1時間後に病院へ搬送されたが、2日後の早朝に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は30.5℃ ^(注2) 。

6	7	業 自動車・同付属品製造	50 歳代	<p>派遣先の建物で清掃作業に従事していたが、備品倉庫（清掃業務をする場所でも休憩場所でもなく、ここで休んでいたと考えられる）で意識不明の状態であっていたところを発見され、救急搬送されたが、翌朝に死亡した。</p>
				<p>・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は31.8℃（注2）。</p>
7	7	その他の建築工事業	50 歳代	<p>午前8時頃より個人住宅の屋根瓦の撤去作業に従事していたが、休憩中であつた午前9時50分頃、嘔吐し動けないと同僚に電話があつた。その後倒れている状況で発見され、救急搬送されたが、同日に死亡した。</p>
				<p>・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は28.4℃（注2）。</p>
8	7	陸上貨物取扱業	50 歳代	<p>竹箒を使った倉庫内の清掃作業に従事していたが、ふらつきが認められたため、速やかにスポットクーラー前に寝かせ冷却剤や経口補水液等の処置が行われた。会話や自力での歩行が可能だったことから病院へは行かず夕刻に帰宅したが、翌日朝に自宅で死亡しているところを発見された。</p>
				<p>・管轄監督署調査時に測定した作業現場のWBGT値は29.4℃。</p>
9	7	造業 その他の金属製品製	60 歳代	<p>工場内での作業に従事していたが、熱中症と思われる症状となり、作業場で休憩していたが回復しなかつたため空調の効いた室内へと運ばれていた。その途中で心肺が停止し、救急搬送されたが、4日後に死亡した。</p>
				<p>・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は32.8℃（注2）。</p>
10	7	新聞販売業	50 歳代	<p>新聞配達業務に従事していたが、熱中症となり、救急搬送された。意識不明の状態が続き、約25日後に死亡した。</p>
				<p>・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は31.8℃（注2）。</p>
11	7	警備業	40 歳代	<p>午前9時より鉄道の線路上における電気設備工事の現場で列車見張り警備の業務に従事していた。昼の休憩中、作業員集合場所の道路上で寝ている被災者を不審に思った同僚が声をかけたところ、体調不良を訴えた。応急手当を行ったが回復せず、救急搬送されたが、その後死亡した。</p>
				<p>・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は32.7℃（注2）。</p>

25	8	一般貨物自動車運送業	60 歳代	午後1時頃より工場内で荷崩れを起こした袋の復旧作業に従事していた。約15分間の作業後、約15分間の休憩を取り作業を再開したが、午後1時45分頃に暑いと同僚に申告して再び現場を離れた。午後2時頃、休憩を取るため冷房されていた休憩所を訪れた同僚に、意識不明で倒れているところを発見された。
				・管轄監督署調査時に測定した作業現場のWBGT値は29.5℃。
26	8	自動車・同付属品製造業	40 歳代	シリンダーブロック仕上げ検査工程にて外段取り作業を担当し、主にライナーセット作業と品質抜取検査業務に従事していたが、午前7時5分頃休憩所付近でふらついているところを発見された。休憩所で産業医等が対応していたが回復が見られず、救急搬送されたが、10日後に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は27.7℃ ^(注2) 。
27	8	その他の建設業	40 歳代	解体工事現場で基礎杭抜き作業に従事していたが、体調不良から一旦休憩に入った。再び現場へ戻った後倒れ、嘔吐、けいれんし心肺停止となった。救急搬送されたが、翌日に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は27.4℃ ^(注2) 。
28	8	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	50 歳代	午前8時より民家の残置物の撤去作業に従事していたが、昼頃に様子がおかしいことに周囲が気づいた。日陰で休ませたが回復せず、救急搬送されたが、死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は32.0℃ ^(注2) 。
29	9	陸上貨物取扱業	20 歳代	ピッキング作業を請け負っている倉庫内にて、2時間ごとの休憩で水分補給を行いながら、商品仕分け作業に従事していた。3回目の休憩後に体調不良を訴え、休憩を延長していたが、動けなくなるとともに過呼吸状態となった。救急搬送されたが、17日後に死亡した。
				・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は25.1℃ ^(注2) 。

(注1) 平成31年1月15日時点の速報であり、今後、内容が修正されることがあり得る。

(注2) 現場でのWBGT値が不明な事例には、環境省熱中症予防サイトで公表されている現場近隣の観測所におけるWBGT値を参考値として示した。

